

書

しりあき

樺太州東富内ノ内ヲチヨホカ
土人トシトリ妹ケマトンケ教室ヨニ
逢タル義郎届

樺太州東富内ノ内ヲチヨホカ土人
トシトリ妹ケマトンケ昨六年十一月
失踪致シ行方搜索中メナケシ居
留キーリン人強姦ノ餘リ河水ニ投
シ及殺害候趣探知致シ土人トモ右キ
ーリン人ヨラセンハートロフト申者ヲ護

① 五十七号

月 石 吏

ちやんちの石神を海に身を投じて一神に化るといふ
日有申メナケシちやんちの山嶽に石をキリシヤラ
セシ。又二兩人を赤い糸で結んで川の中を流す所
海を以て遊んで伏して身を投じて身を投じて身を
身を以て遊んで伏して身を投じて身を投じて身を

新島日
宮新

三月三日

以て遊んで

代北野村

記

三丹今アレキセ一方向

日
キーリシ人

エラセシ。トロク

一 志守の内山道にチケシに流す土人ナノチチ強
女は流して死に殺す水中に投じて四八「ヤラセ」兩
今可業の由る方尼流す所土人ナノチチ
以て遊んで伏して身を投じて身を投じて身を

明治七年四月二日

キーリノ人其神一神對話書

彼

キーリノ人其方直西其知く其方直西其知く
事揃く其方直西其知く

我

其方直西其知く其方直西其知く

彼

ラノ也

我

東地より今日所住を去人(世年五旬)若出後仍
清多お分ツ衆又海浦住をキーリに今こヤにト
Pモノホ人古く住マラセシムイハシム
至る内山中と居ル女母と上お害を戸ハ河
掘ル花梅有田他と土人エラセト申上
来りて願ふ。新築を園(下)角り新築
能ふお分ツ一ヤラセシムイハシム人
居住る他ヤル

彼

キーリに人々住来るは日住居に相傳ふ海

海に船より人何分おり海にお母より来る
此にラカ

我

キーリにの老(國)を居ルるハ能く
お彼品を住しり所り土人等五押り
新築を有る人子実を有る。梅申
可少少住しツ有老人を力者
公衆よりあるを去る人
彼よりあるを住しる人

彼

是處より言はれ口物不
り有必下凡の贈とらたれと云ふ

我

去者から天正のころユリ生るる文謹もあま
りし者何れは往くは向りて来りては去れ
おれり

彼

去者何れは往くは向りて来りては去れ

我

只言はれしはる中坤の自るらん去るは去る

彼人の心を知るは一種の人の心を知る
心を知るは人の心を知るは人の心を知る
情は心を知るは人の心を知る

彼

去者何れは往くは向りて来りては去れ

我

去者何れは往くは向りて来りては去れ

去者何れは往くは向りて来りては去れ

世多事十月月中如去人ケトレシテ教書之羅
タル一件キーリン人ノ冥係之ヲ毎我田兼美
外キ人巨身ハツシシニ及旨魚日必ホルチツリ
カロイフミルニ則立存ヲ存日向存又右面令
為空別紙之通也邊世之也也

以法五年四月廿六日 大寺與寺之想前